

数字で見る鹿沼病院

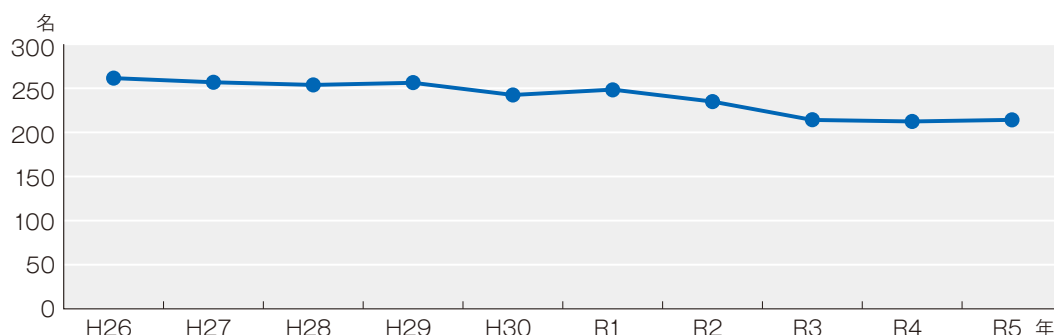
～令和5年度統計年報～

※R5年4月1日～R6年3月31日までの統計。

※R6年3月31日を基準日とする。

●入院部門

①過去10年間の1日平均入院患者数



②新規入院患者

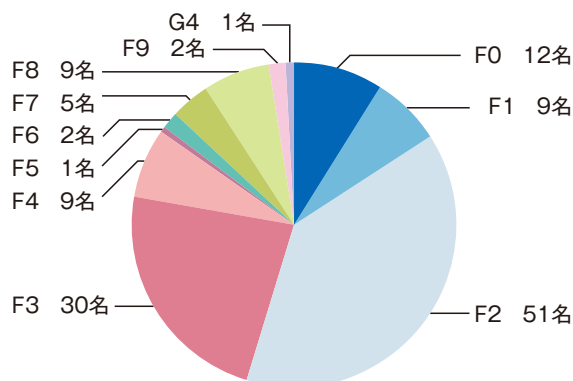
■ 新規入院患者は131名（男性59名、女性72名）。

■ 年齢別内訳

10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代
5名	13名	14名	13名	26名	17名	22名	16名	5名

※概ね平均的な数値だが50代が突出して多く、次いで70代が多い。その後の順番も60代、80代と続き入院者の高齢化傾向が見られる。

■ 疾病別内訳 (ICD-10・11)



※最も多いのはF2（統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害）、次いでF3（気分〔感情〕障害）、3番目にF0（症状性を含み器質性精神障害）。元々の気質は否めないが環境や時代の影響とも言われる気分障害、高齢化に伴う認知症が多く見られる。一方、僅差でF1（精神作用物質使用による障害）、F4（神経症性障害）、F8（心理的発達の障害）も同数で並んでいる。

■ 紹介元内訳

外来	93名
上都賀総合病院	12名
獨協医科大学病院	4名
さくら・ら心療内科	2名
竹村内科腎クリニック	2名
その他	18名

③ 在院入院患者

■ 在患者数は206名（男性109名、女性97名）。

■ 年齢別内訳

10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代
0名	5名	5名	20名	40名	44名	55名	32名	5名

※30代以下は10名のみ。40代から徐々に増え50代以降は概ね平均的だが70代が突出している。

早期退院の流れから若い世代は入院定着せず回転が速いことがわかる。

■ 疾病別内訳（ICD-10・11）

F0	F1	F2	F3	F4	F5	F6	F7	F8	F9	G4
25名	6名	141名	15名	3名	0名	0名	8名	5名	1名	2名

※新規入院の疾病別と上位3疾病は変わらないが、こちらはF0が2番目でF3が3番目となっている。

■ 入院形態別内訳

任意入院	64名（31.1%）
医療保護入院	142名（68.9%）

■ 住所地別内訳

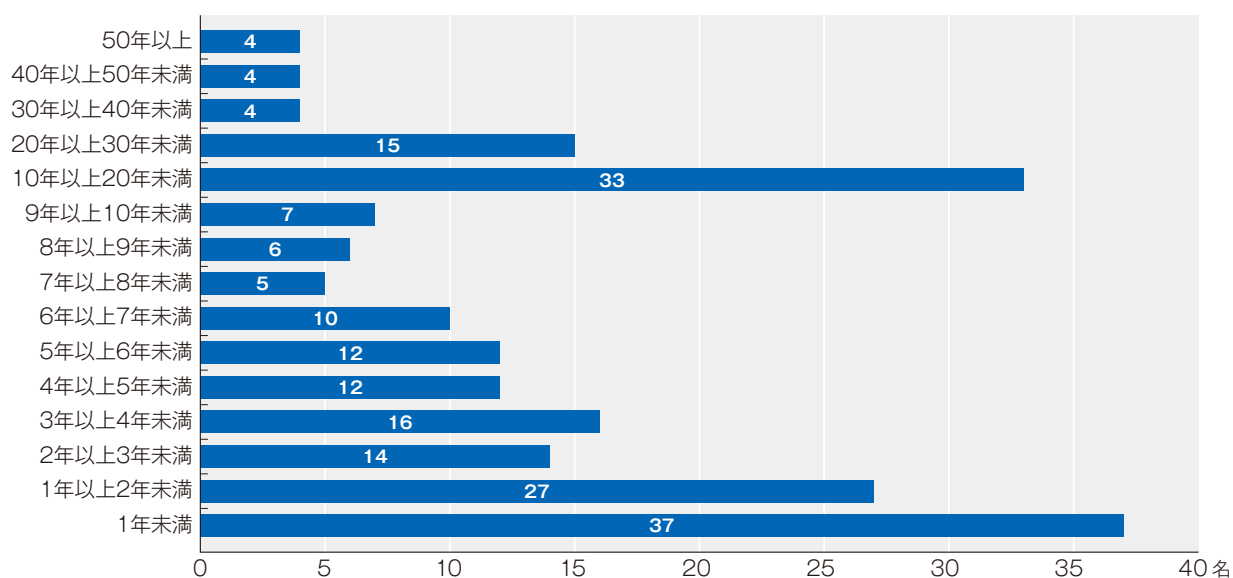
鹿沼市	95名
宇都宮市	41名
日光市	28名
栃木市	18名
壬生町	10名
佐野市	3名
下野市・埼玉県	2名
足利市・小山市・上三川町・さくら市・高根沢町・真岡市・東京都	1名

■ 当院での入院回数内訳

1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	8回	9回	10回以上
53名	37名	29名	21名	16名	18名	4名	8名	8名	12名

※全体の4分の3が2回以上の入院を経験されている。一度の入院での長期的な安定や改善が難しいという点や、不安定になり得る要素を持つ病気の特徴をうかがい知ることができる。

■ 入院期間別内訳



※1年未満の入院が最多。入院期間と入院者数は反比例するが、一方で10年以上の超長期入院者も全体の約3割を占める。

■ 平均在院日数 ※（）内は昨年度

全体	435.5日（554日）
南1病棟	388.3日（507日）
南2病棟	2233.4日（1300日）
南3病棟	2361.1日（1118日）
北2病棟	816.0日（770日）
北3病棟	975.5日（1733日）
北4病棟	65.4日（68日）

※全体の平均在院日数は減少傾向。急性期治療病棟の新規入院者の入院期間はより短期化する一方で、精神療養病棟や認知症治療病棟の長期入院者は、より長期化する傾向が読み取れる。

■ 紹介元内訳

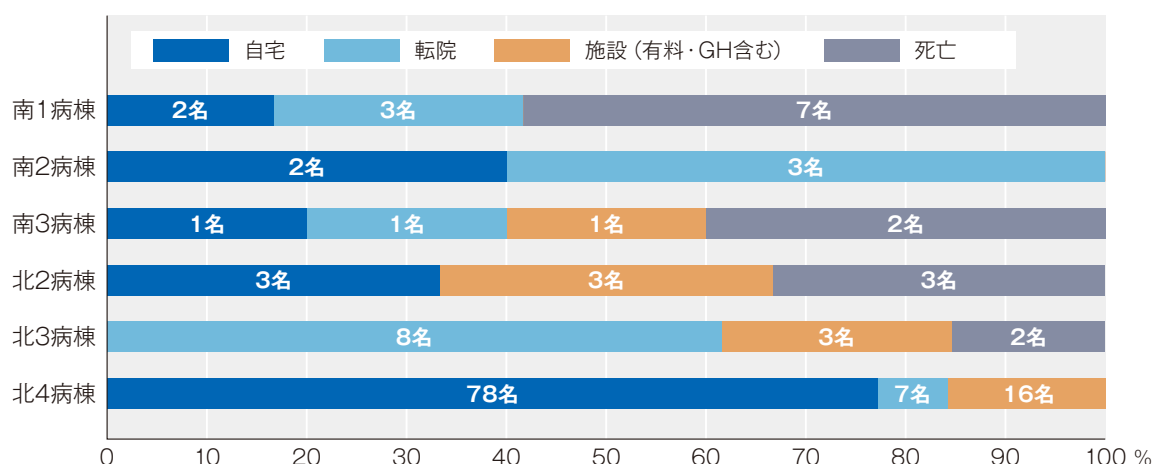
外来	59名
上都賀総合病院	48名
獨協医科大学病院	25名
自治医科大学病院	6名
岡本台病院	6名
措置入院	6名
その他	56名

※新規入院者の紹介元は「外来」が70%以上であったが在院患者の紹介元は「外来」が29%、「上都賀総合病院」が23%、「獨協医科大学病院」が12%となっている。これは他院からの紹介による入院は入院定着に繋がりがやすいということと、身体合併症等による他院転院後の帰院者が多いことを示している。

④退院者

■ 退院者数は145名。

■ 退院先内訳



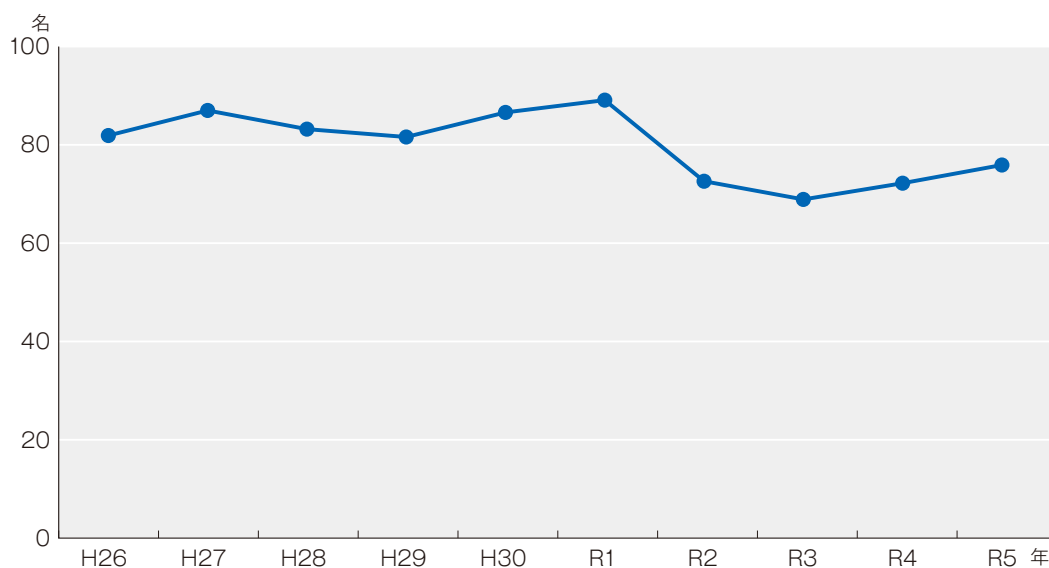
■ 退院者の在院日数内訳

1年未満	119名
1年以上2年未満	8名
2年以上5年未満	5名
5年以上10年未満	5名
10年以上	3名
11年以上	2名
15年以上	1名
26年以上	1名
57年以上	1名

※約82%が1年未満で退院されている。ちなみに57年以上入院されていた方の退院理由は死亡退院である。

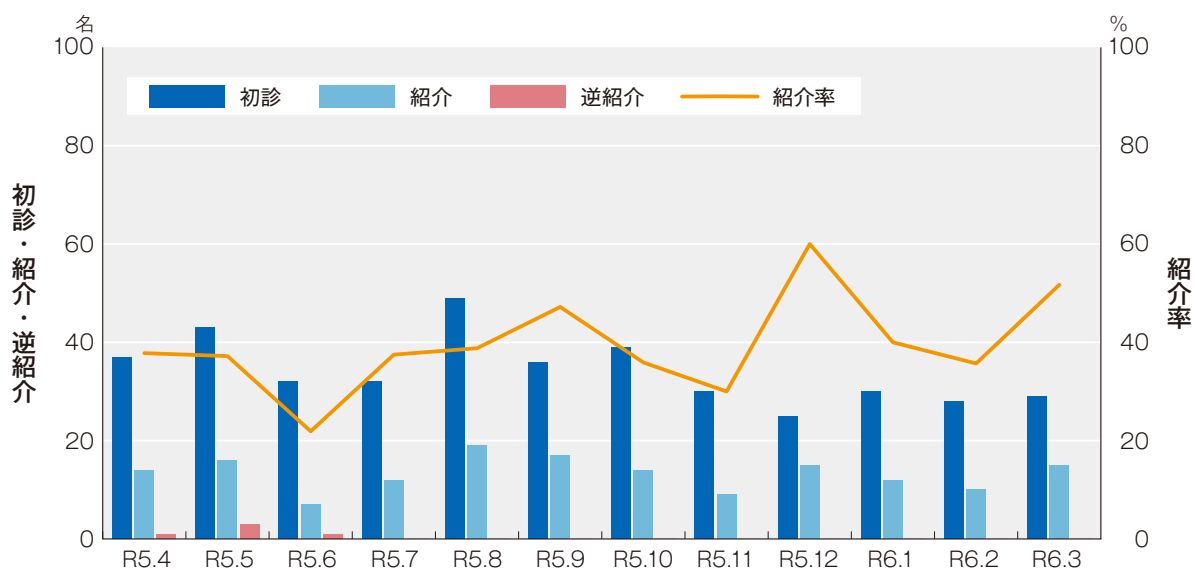
● 外来部門

① 過去10年の1日平均外来患者数



② 初診・紹介・逆紹介

■ 紹介率を含めた内訳



※初診は5月と8月のみ40名を超えているが平均は約34名で月毎の差は左程ない。初診の内他機関からの紹介は平均40%程。一方当院からの紹介は年間通して5名のみとなっている。初診予約制となったことが平均的な数値が出ている理由の一つと言えるが、間口が狭くなった分通院継続に繋がるような丁寧な対応が求められる。

③訪問看護

■ 訪問者数 64名（男性30名、女性34名）

■ 訪問件数内訳（総数とPSW同行数及び割合）

	R5年度訪問看護件数	内PSW同行	PSW同行割合
R5.4	213	69	32%
R5.5	167	62	37%
R5.6	163	52	32%
R5.7	167	50	30%
R5.8	183	62	34%
R5.9	177	55	31%
R5.10	178	50	28%
R5.11	175	52	30%
R5.12	171	50	29%
R6.1	153	50	33%
R6.2	148	41	28%
R6.3	162	44	27%
	2057件	637件	31%

■ 直近指示からの利用期間

半年未満	9名
半年～1年	9名
1年以上	11名
2年以上	2名
3年以上	5名
5年以上	10名
10年以上	18名
	64名

※新規もしくは入院等でリセットされた直近指示2年未満の方と、5年以上在宅で長期に安定している方の割合が多く、少数となっている2年以上5年未満の生活の安定が一つの区切りとなっていることが読み取れる。言い換えればその中間期を乗り越えることが出来れば長期での安定した生活を送り得ると言えるかもしれない。

■ 利用者年齢内訳

20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90以上	合計
5名	4名	13名	13名	15名	12名	1名	1名	64名

※訪問看護の指示は通院患者に対するものの他、入院者が退院される際に出されるケースも多い。指示の理由としては怠薬や拒薬の恐れがある場合はもちろん、管理する家族がいない単身世帯、同居者がいても関係性等の問題により管理が難しい環境、病識がなく第三者の目が必要な場合など服薬管理等の支援が必要な方に出される傾向にある。在宅生活を長く続けていただくためのサポートであり、不調を来した際には早期対応（主治医への相談、入院等）により早期解決ができるメリットもある。年齢は40代以上に多い傾向にある。

（統計資料作成：医療相談課 星 圭一）